

『明日の学校』

一九四八年三月（国民教育図書）

教員養成談義

天邪鬼*

●教員養成のことについて何か言えというのですか。どうも私には不得手のことのようにです。何しろ私どものような時代遅れの者には何がなんだかわからないことばかりです。この頃教育者としての教師なんていう言葉がある様ですがこれがわかりません。教育者でない教師というのもあるらしいんですね。教育者でない教師を養成するなんてことになるとこれはやさしいのか難しいのかわかりませんね。教育労働者などということもいわれて居りますが、これも養成の問題になるのでしょうかね。どうも民主主義というものは難しいものですね。教育労働者なんていうものを養成するということになるかと教育労働学校が必要になるのでしょうか。

尤も今の先生方は教育労働者であると自

ら名乗って居られるのですから、そうするとこれは師範学校で養成された人達もいること故、今迄の師範学校はとりも直さず教育労働者養成所であったわけですから、そう大してかわった事もないわけですね。今後師範学校でどしどし今迄通り教育労働者を養成していただければよいわけです。

来年からは師範学校も学芸大学とか名を改めて、大学になるそうですが、この所、中等学校から専門学校、大学と三段飛びに出世をしたわけですね。何とも教育のために御同慶にたえないわけですが、いつそのこと教育労働大学というのはどうでしょう。

教育労働大学になるときつとすばらしい熟練工が出来るでしょう。どうもあちらこちらの教育労働者にお目にかかるのですが、熟練労働者は極めて少ないようですね。もつと熟練工を養成していただくよう師範学校の先生方をお願いしたいと思います。

●まあ今の所、使節団の報告書にもある通り、封建時代の家内工業労働者位の所でないでしょうか。今は産業革命時代に当りましようか。新しい機械をつかってまるでかわった技術を駆使することを要求されているわけですね。そういう技術をもっていない教育労働者なんていうものはこまりますね。

併し師範学校の先生方にこういう新しい労働者、熟練工を養成することが出来ましようか。どこの国でも師範学校というのはオールドタイプらしいですね。学校、中学校、師範学校と比べると低い方からだんだん先生方はオールドタイプになるようですね。だから困るんですね。何時かもおかしい話でしたが小学校の先生方を再教育するのは師範学校だろうが、その師範学校の先生方を再教育する必要があるのじゃないか。それは誰がするの、それはさしづめ大学の先生方だろうが、その大学の先生方は最も再教育の要がありはしないか、それにはどうすればよいかと困ってしまったという話をしたのですが、どうも笑い話にしてはちと深刻すぎるじゃないですか。これはどうも名前をかえて学芸大学にしても、教育労働大学にしても解決のつきそうもない事ですね。

●教育刷新委員会の老人方の中には師範学校廃止論者も居られると聞きましたが、今の師範学校のようなものなら御尤もだと賛成したくなりますね、若い頃から学校で君達はこの態度でなくてはならない、教育を天職としなくてはならない。子供に愛を持たなくてはならない等とお談義をきかされた人間が必ずしも教育者としての教師になると

はいえますまい。いろんなことだけは知って
いるだけ始末のわるい教育労働者が出来る
のでありますまいか。教育者には人間性が大
切だという或る老人のお考えには尤もな所
があると思いますね。

オールドタイプの師範学校が教育者につ
いての知識だけしか与えることが出来なか
ったということはこういう議論を生むもと
になるのですね。実際教育してゐる所をみて、
教育に関して教育をうけた人が案外だらし
がない所からこういうことを考えたくなる
のですね。教育熟練工をつくるということに
師範学校は大転換しなくてはなりませんまい。
本当に教育のやれる人をつくることを考え
てもらいたいものです。

●学問的知識をもった人がすぐれた教育の
技術者だとむかしは考えられたものです。い
や今でもそう考えている人が多いようです
が、それがあやまりのもとです。教育は学問
を教えることではないでしょう。生活の指導
者が教師の仕事だといえましょう。子供を生
活させることが教師の役割でないでしょう
か。そういう事になると、或る学問について
の知識をもっているということだけでは到
底出来ないことでしょう。それも深い造詣を
持つまで学問したというのならそれでまた

人生もわかつて来ますから、生活の指導者と
もなりましようが、まあ失礼ながら若い先生
方の生半可な学問の知識では不可能でしょ
うね。

もちろん私達は先生方にそうむつかしい
事を要求しようとは思いません。けれども真
剣に人生を考えて、子供と一緒に生活して
してもらいたいと思います。わからんところ
はわからんでよいですから、むやみにえらい
人として子供達に押しつけてもらいたくない
のです。そういう人は或る御老人のいうよ
うに確かに人間性の豊かな人でありましょ
う。けれども人間性といってしまうと、これ
がまたくせものですね。哲学や文学を読んで
いると人間性が出来るなどという人も決し
てないわけではありませんからね。大抵人間
性をそんな狭い意味で考えたのがけしから
んことです。私達のような一介の市民は人間
性をもたない奴だといわんばかりの態度で
すからね。工場の工員だって、農民だって、
その人達の仕事のなかに人間性がある筈で
しょう。むしろ生活するというのはそういう
仕事をする事でしょう。そうして人間性が
私達の生活に役に立つのなら仕事の中に生
きている筈でしょう。哲学者や文学者が人間
性の代表者だというのでは不服ですね。

私達が若い先生方に望みたいのは、日常のい
ろいろな仕事の中に人間性を発見してゆく
ことを子供と一緒にやってみていただきたい
ことだと思いますね。生半可な理屈をふり
廻していただくより、ほんの少しでもよいか
ら私達の毎日の仕事を愛してその中に尊い
人間の光を見つけ出していつてくれること
を望みます。そうすれば私達の子供がやがて
どんな仕事につくにしても、その仕事をだん
だん人間的な楽しいものにしてくれると思
います。そういう事の出来る人が先生に欲し
いですね。教育労働者でもなんでもよいです
が、子供との生活をこういう風に営んでい
てくれる人が私達の希望でして、子供との生
活より、経済が大切だったり、経済のみが生
活の根柢にあるというのでは困るのです。金
がもうかるから教育者になるとするのは困
りものです。先生方の待遇もよくしなければ
いけません、もうかるから先生に成るなど
ということでもおかしいとは思いませんか。
●話が半分横道へそれましたが、もう少し言
わせて下さい。日本人は、教育は国家百年の
計などと大切にするようですが、私はこれは
まゆつばだと思つたのです。最近アメリカの様
子がだんだんわかつてきました、あちらで
は子供をよりよく生活させるために一般の

人が実によく協力しているのですね。教科書一冊をごらんになってもよくわかるでしょう。日本の出版社のようにあれだけの努力をして教科書をつくる所はありますまい。その他いろんな所で、世の中の人が子供の生活の設計を考えていてくれるのです。こういうことが教育を大切にしてくれるということだと思います。口で大切だといってもそれは怪しいと思うのです。先生方も教育は大切だなど口で言うばかりでなく、子供の生活の設計者として先頭に立って働いていただきましたものです。そういうことをしないで、教育は大切だ、だから俺達に金を出せなどといっているだけではどうもい物になりますまい。まあいたちごっこですね。

一般の人達が子供の生活を大切にしようにならなくては、教員の待遇なんてよくならないと思います。教員の待遇より教育の待遇をよくしてもらいたいものです。それには先生方がまず子供の生活を大切にしてやるようにならなくてはだめでしょう。そうなくてはじめて教育復興というはやりことばも現実化されるのです。

●脱線しましたが、教員を養成するということもこういう所から考えなくてはなりません。私は、教育者はいろいろな生活の指導

者でなくてはならぬと、思うのです。現実の生活を自ら愛し実践している人がよいと思うのです。教育を商売とする人を養成するのはいけないのだと思います。自分がまず本当の生活をして行こうとする農民であり、工場の生活者である人達が、自分達の後継者を養うという風になって行くべきだと思うのです。その人達が子供の心を考え人間の成長の姿をしらべて子供と生活する技術を会得したとき本当の教育者になりましょう。教員を養成するにはこういう考え方で考えて下さい。

●教員には一般的教養が必要だといいますが、その一般教養というのは単に哲学や文学ではありません。これは先にも申しのべた通りでありますから、もう申しませんが、芸大学の一般的教養の課程などというものはどういう風に考えられているのでしょうか。相かわらず十八世紀の人間教養観を振り返って居られるような気がするのですが。

●それから教育の熟練工になるには、ただ教育者の心得だけを訓話していたのではだめです。そんな事を若い頃からやればやる程かたわが出来ることは間違いありません。子供と生活する所でその生活の仕方を学ばなくてはなりません。これが教職につく専門的教

養となるのでしょうか、これが一体これからの学芸大学でどの程度出来ますか、まあそういうことには無関心なえらい先生方ばかりが多すぎますからね。

大体教育は教室の中で教科書をこねくり廻す技術だなんていう考え方が日本では強すぎますね。だからえらい刷新委員会の老人方でさえも教育者には人間性だけでよいなどということをいい出すのです。これは日本の教育文化の低さでしょう。人間を育てる様々な方策や技術を考えて生活の全面に浸透させることが教育の仕事でしょう。これは単に人間性の問題ではないのです。こういう考えが日本人一般の中に強くならなくては、教員を養成するなどということがそもそもおかしい事です。根本を培わなくてはよい教員は生れません。結局師範学校で教えることはお説教にすぎないという皮肉なことになります。随分えらい人達が教育ということについて案外常識的な御意見のようです。だから教育ということを実剣に考える人がなく、従って教育は誰れでもやれることで、平凡な教育労働者しか必要でない等と考えられることになるのではないのでしょうか。

*矢口新のペンネームの一つ。